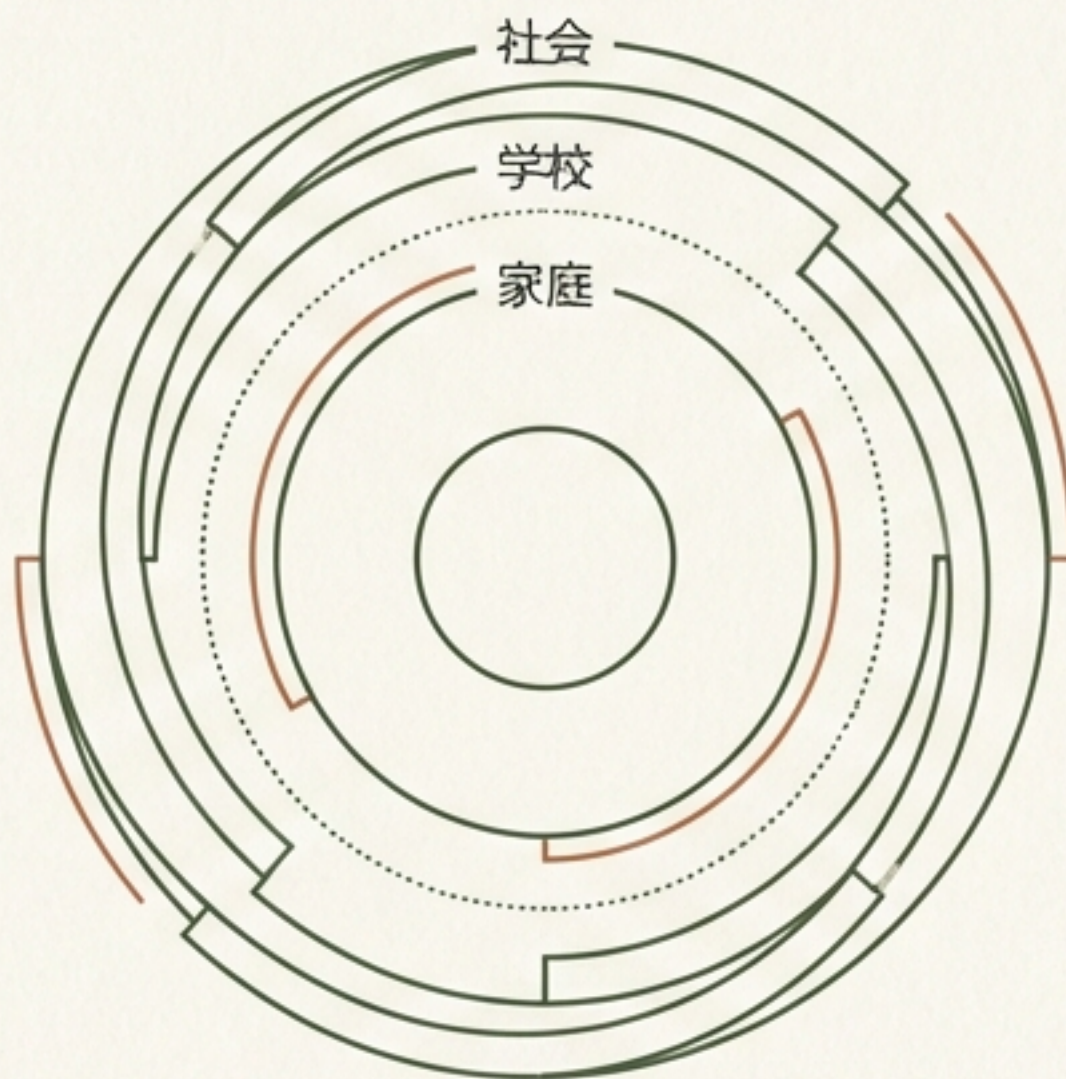


現代における幼児教育の社会的使命

変容する社会背景と、進化する保育者の専門性



Based on Lecture 1: Social Background of Early Childhood Education

本資料の構成と学習到達目標

現代の保育者は、単なる「子供の世話」を超え、社会課題を解決する専門職としての役割が求められている。本資料では、以下の4つの視点からその全体像を俯瞰する。



1. 社会的課題

The Changing Context



2. 専門性と資質

Core Competencies



3. キャリアステージ

Professional Growth



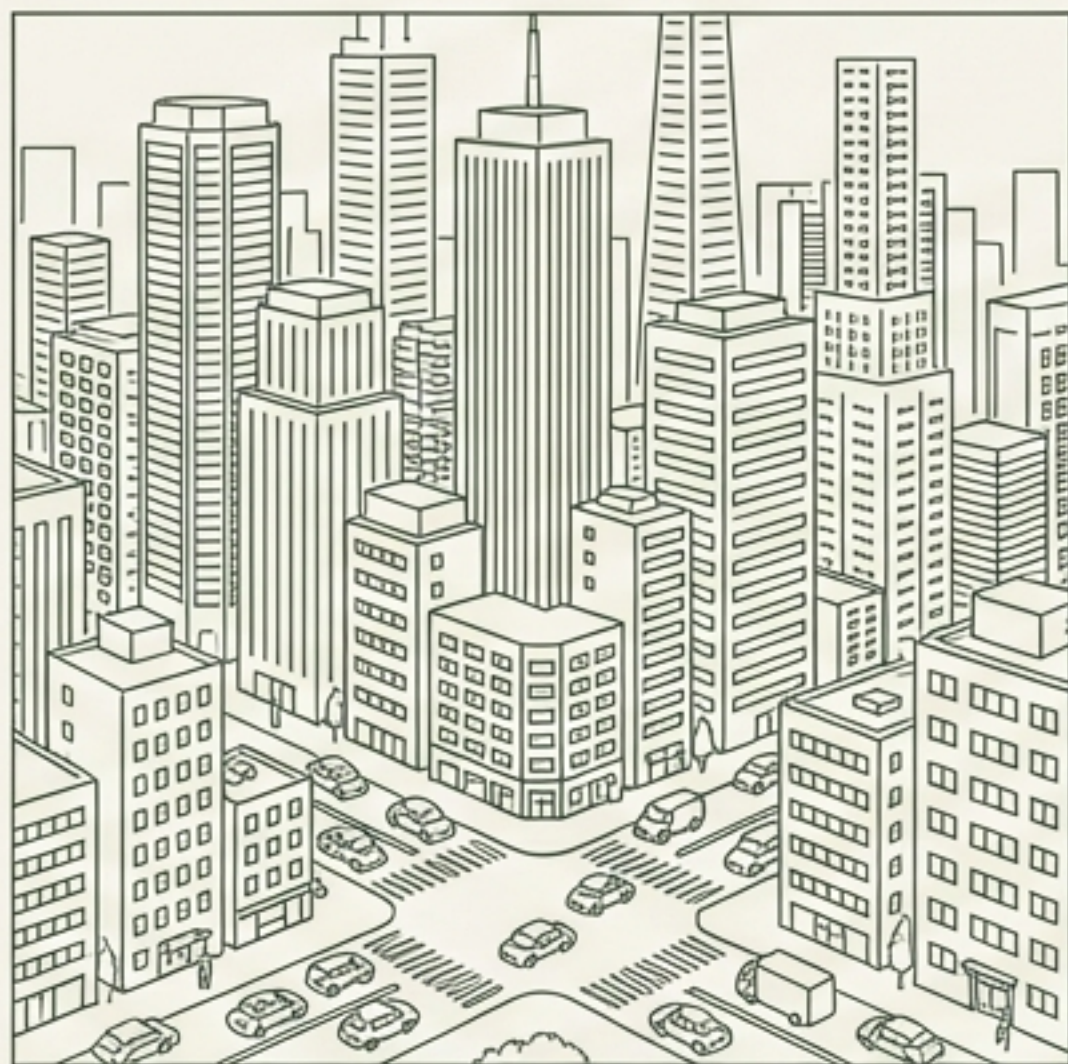
4. 幼小接続

Bridging the Gap

変容する社会、失われる「遊び」の環境

かつて自然に存在した「地域・家庭の教育力」が機能しにくくなっている。

空間の喪失 (Space)



都市化と安全な遊び場の減少

仲間の喪失 (Peers)



少子化・関係の希薄化

時間の喪失 (Time)



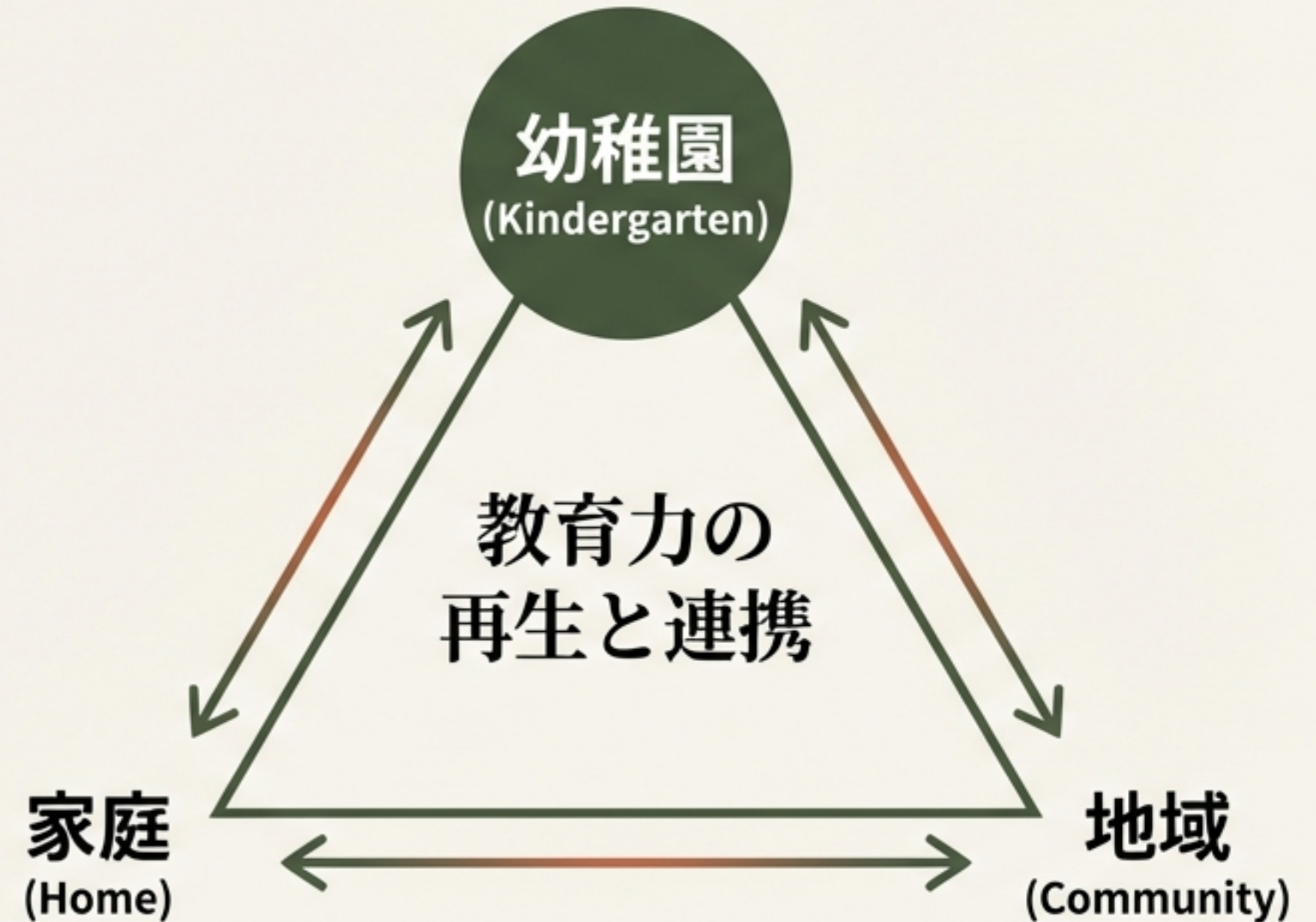
多忙な親と「孤」の遊び

顕在化する子供たちの課題



現状の課題

- 意欲・関心の低下
- 集中力・自制心の低下
- 運動能力の低下



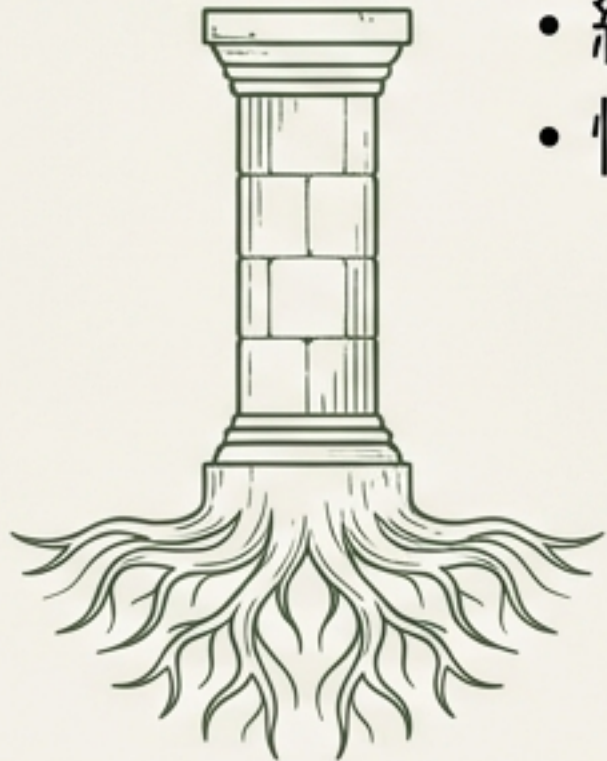
幼稚園が家庭・地域の教育力向上を助ける
「中核」となる必要がある。

教員資質の「不易」と「流行」

【不易】 Fueki (The Immutable)

いつの時代も変わらない原点

- 幼児への愛情
- 発達の理解
- 総合的な指導
- 情熱と使命感



【流行】 Ryuko (The Trendy)

時代とともに求められる新たな資質

- 社会変化への対応
- 幅広い生活体験
- 柔軟性
- たくましさ



「不易」を軸にしつつ、「流行」を取り入れる
不断の努力が求められる。

幼稚園教員に求められる8つの専門性

01



幼児理解・総合的指導力

02



保育を構想する実践力

03



得意分野と協働性

04



特別な配慮・多文化対応

05



小学校・保育所との連携

06



保護者・地域との関係構築

07



園長のリーダーシップ

08



人権に対する理解

専門性Ⅰ：遊びを通じた「総合的な指導」

内面の理解

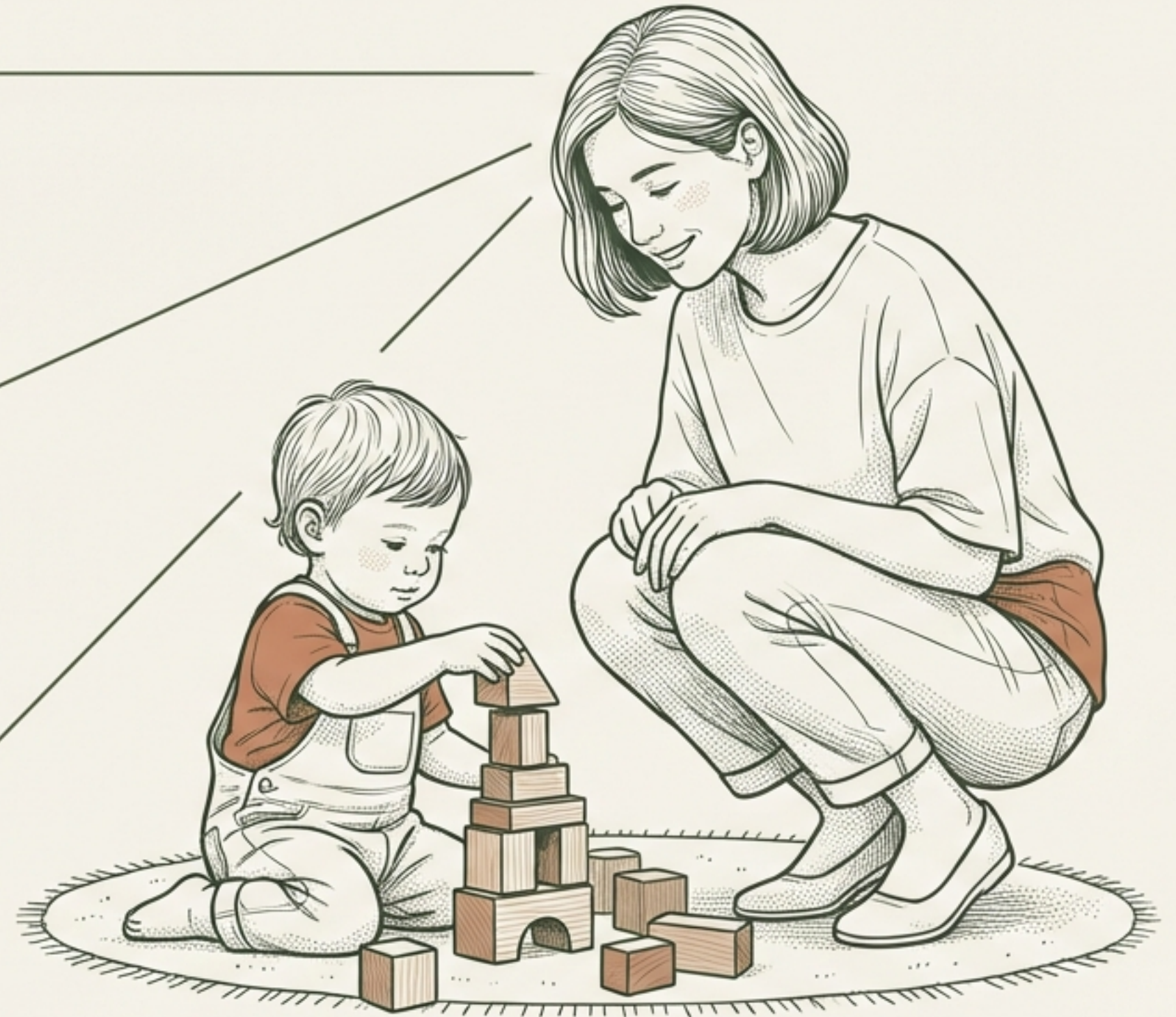
- 幼児の内面を理解し、発見の喜びや達成感に共感する。

環境の構成

- 幼児が主体的に活動できるよう、物的・空間的環境を計画的に構成する。

得意分野の活用

- 教員自身の得意分野（運動、言語、自然体験など）を活かし、子供の興味を引き出す。



専門性II：多様性の受容と人権感覚

教室は社会の縮図であり、最初の集団生活の場である。



インクルーシブな視点 (Inclusivity)

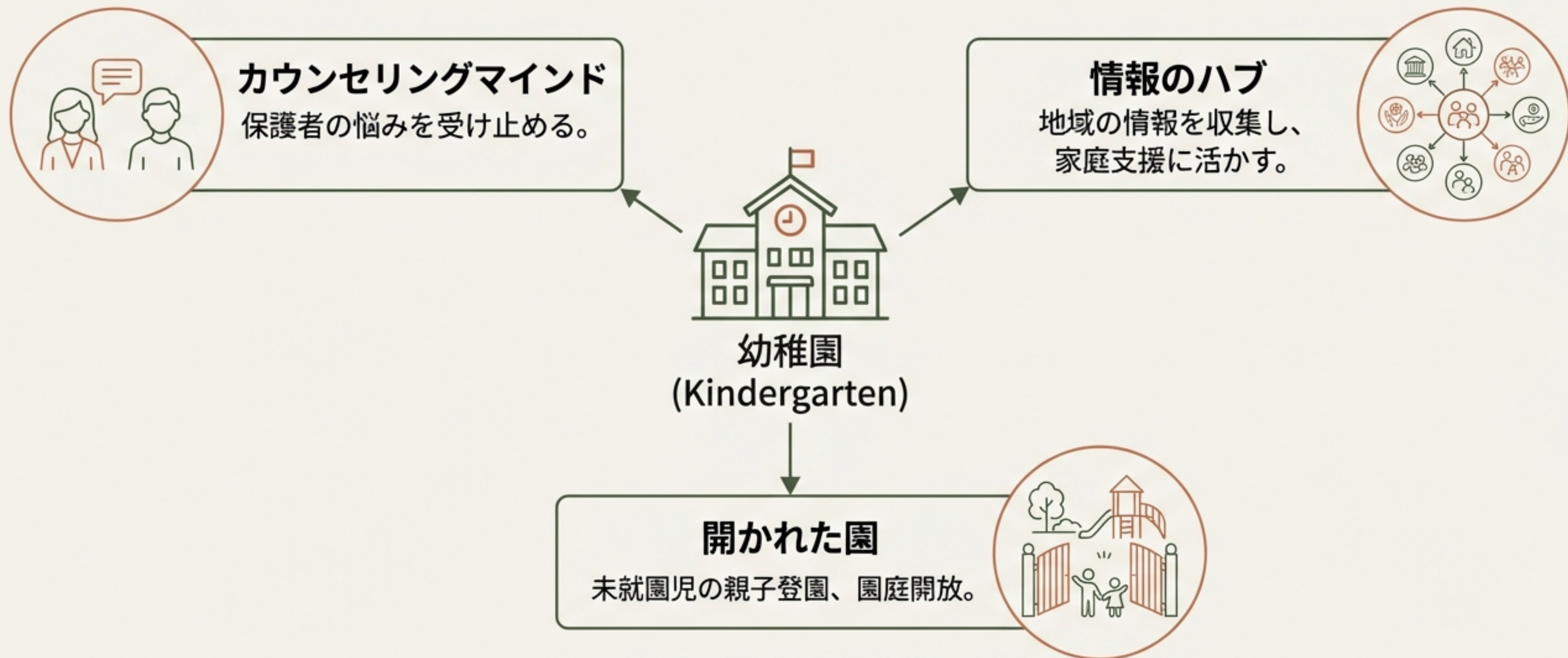
- 障害のある幼児への専門的知識と対応。
 - 外国籍の幼児への文化・言語理解と保護者支援。
-



人権尊重の精神 (Human Rights)

- 幼稚園は「初めての集団生活」の場。
 - いかなる差別も許さない姿勢。
 - 社会のルールと他者尊重の精神を育む。
-

専門性III：地域の子育て支援センターとして



【園長の役割】 組織のリーダーとして、教員の資質向上支援と危機管理を担う。

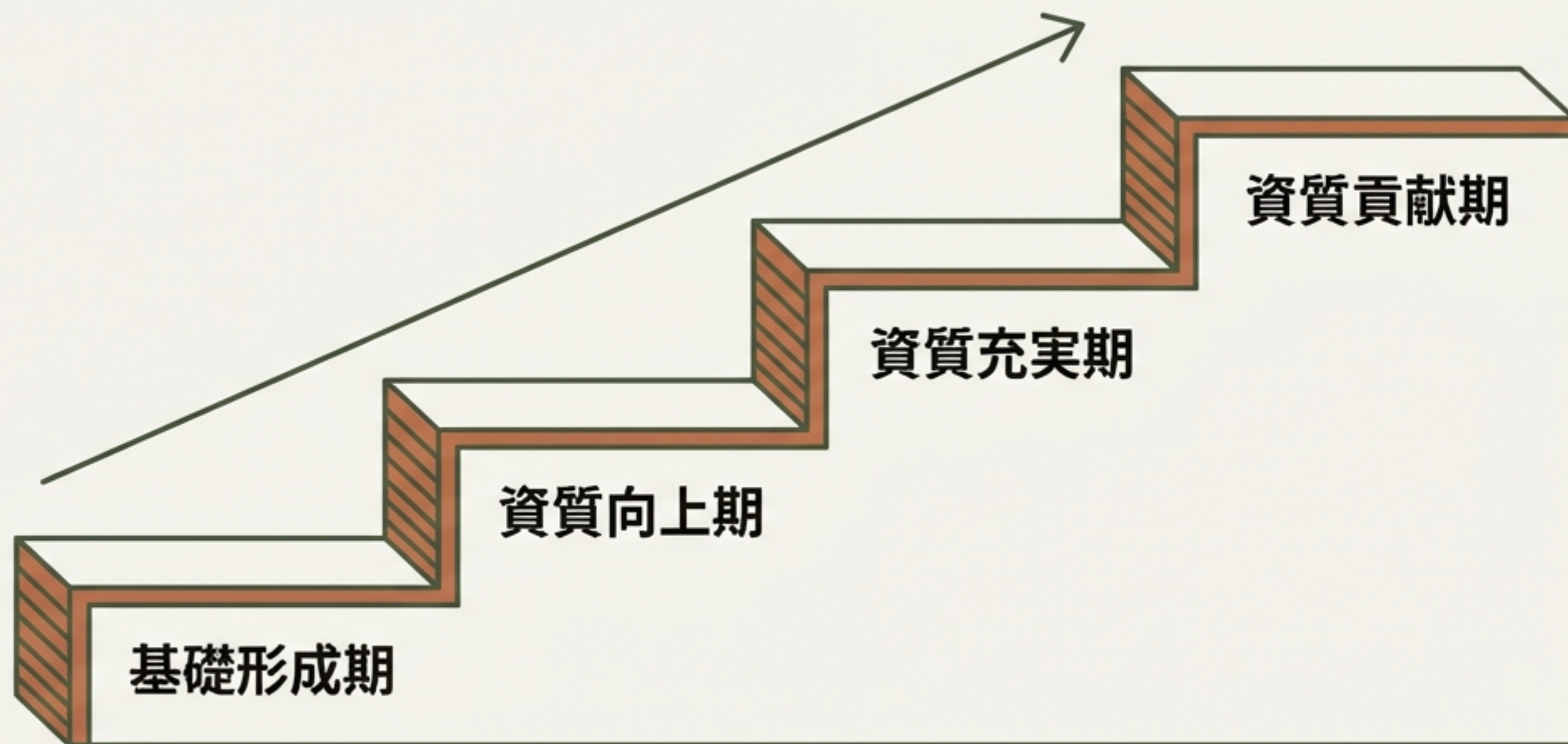
教員育成指標の構造：標準化と卓越化



背景

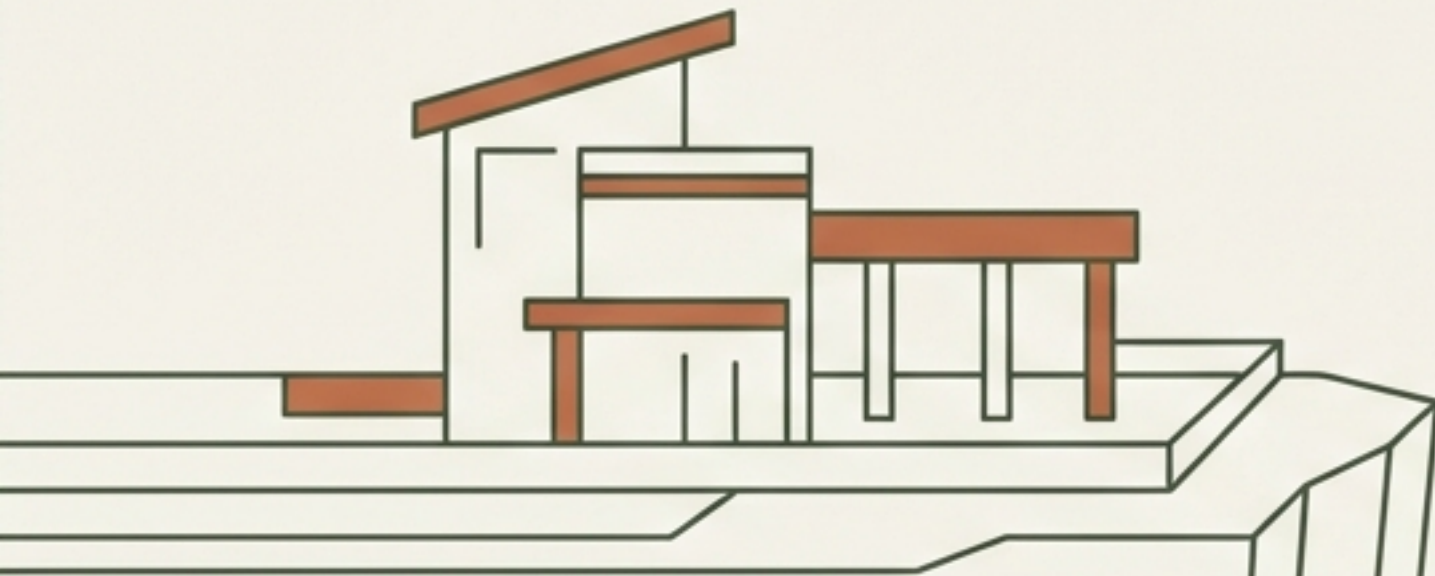
2017年の教育公務員特例法に基づき、すべての教員がキャリアに応じた資質向上を目指を目指す。

事例：岐阜県におけるキャリアステージの4段階



経験年数や職責に応じて、自らの指標を確認し、研修計画を立てるための羅針盤。

「小1プロブレム」の正体と接続の課題



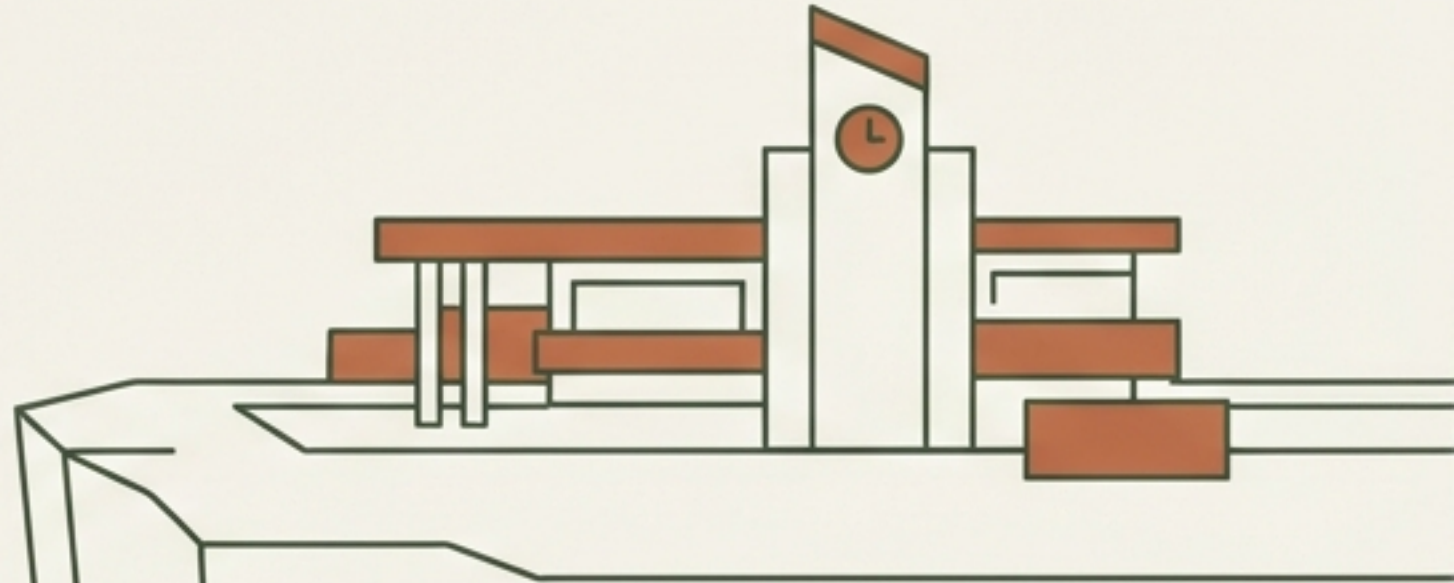
幼児教育 (Preschool)

- ・遊びを通じた学び
- ・「～を味わう」「～を感じる」
- ・学びの芽生え



小1プロブレム

(1st Grade Problem)



小学校教育 (Elementary)

- ・教科を通じた学習
- ・「～を知る」「～ができる」
- ・自覚的な学び

「学びの芽生え」から「自覚的な学び」へ

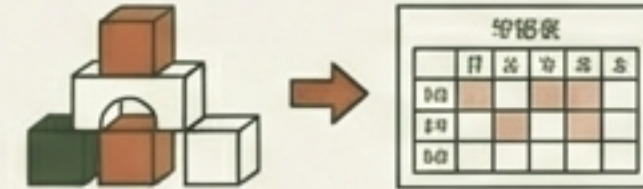
育ってほしい姿の共有



学びの可視化

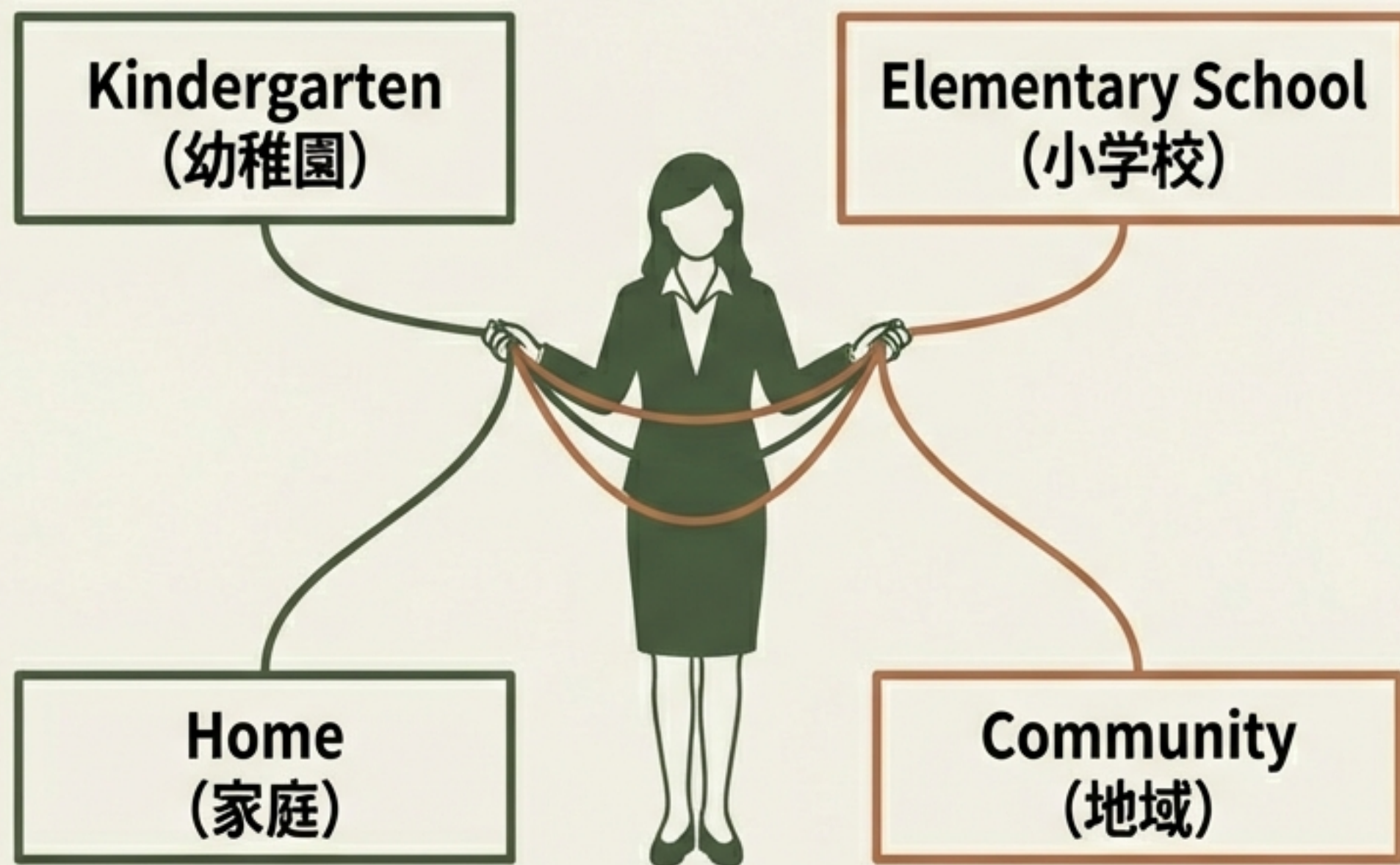


スタートカリキュラム



断絶から連続へ。子供の戸惑いをなくすためのアプローチ。

接続期のキーパーソン：幼児教育コーディネータ



- **1. Bridge:** 5歳児カリキュラムと小1スタートカリキュラムを一体的に推進する。
- **2. Data-Driven:** 経験則だけでなく、データに基づいて教育方法を改善する。
- **3. Network:** 園、小学校、家庭、地域をつなぐハブとなる。

Noto Sans JP

これからの保育者が目指すべき姿（まとめ）

- ✓ 家庭・地域の変化を理解し、その不足を補う環境を構成する。
- ✓ 「不易」の愛情と「流行」の柔軟性を兼ね備える。
- ✓ キャリアステージに応じた自己研鑽を続ける（例：岐阜県モデル）。
- ✓ 幼児教育コーディネータ等の視点を持ち、小学校との滑らかな接続を実現する。

子供の「生きる力」の基礎を培う、最も重要な時期の専門職として。